

わ か ば

2019. 1. 12
第18-35号
文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

重点目標 一人一人が輝く教育 ～期待登校・満足下校～

輝ける1年が始まりました。…終礼での代表児童生徒の「今年の抱負」

本年最初の開校日である1月5日、全児童生徒が集う「終礼」をしました。校長の新年の挨拶に続き、各学部代表児童生徒の「今年の抱負」の挨拶がありました。

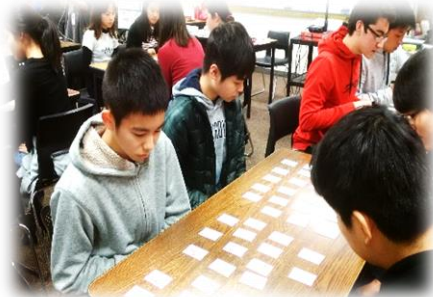
「一年の計は、元旦にあり」とよく言われますが、やはり年が新たになり今年にかけのおもいは、それぞれの心に強くあるようです。

代表者の挨拶は、「サッカーにける熱い情熱」「人との交流を深める優しさ」「人の為でなく自分自身のために努力する決意」「独り立ちする意欲と決意」でした。名前や内容を適宜、次号以降にご紹介します。



日本文化を体験…高等部に続いて、中学部1年「百人一首大会」にチャレンジ

高等部が取り組んでいる「百人一首大会」を中学部1年でも試みました。緊張感や臨場感を高める工夫として、専門の方の読みの声をネット上からとり再現したことで、真剣な生徒たちのまなざしと大会の盛り上がりとなりました。



2019年の教育委員の皆様です！

ポートランド日本人商工会長は、小野瀬 雅幸様が退任され、総務委員長であった関根 代伍良様が就任されました。小野瀬様、大変ご苦労様でした。ありがとうございました。

2019年は新会長の下に、右記の教育委員の皆様が、引き続き快く2019年も継続されることとなりました。

1月は、入園、入学説明会、2月には、入園入学試験があり、いよいよ3月は、ポートランド日本人学校の卒園式、卒業式があります。

そして新年度の4月には入園式、入学式と行事等で錯綜する時期でもあります。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。

ポートランド日本人商工会 会長 関根 代伍良(せきね だいごろう)			
教育委員長	飛鷹 裕之	顧問	平澤 雅樹
副教育委員長	久保 信人		信國 寿敏
【教育委員】		(事務局)	オブライエン 佳子 松下 真弓 クライター 聡美
加藤 寛規	府川 博文		
永坂 孝	佐伯 俊明		
廣田 哲也	金井 健一		
奥川 元	染川 弘明		
市村 賢司	堀江 裕之		
佐々木 正直			



児童生徒の作品紹介 29

今回は、3年生の俳句、1年生、5年生の作文、小学部6年、中学部1年の読書感想文をご紹介します。校長 信國 寿敏



【三年生 俳句】单元 「冬の楽しみ」から

お正月 おせち料理が 楽しみだ	菅 優菜
寒い夜 小さな町に 雪がふる	横山 春輝
雪がふる ぶるぶるふるえ 寒い冬	佐伯 悠斗
楽しみだ サンタにもらう プレゼント	永田 彩華
もちをやく もちもおなかも ふくらんだ	小山 慶士
雪だるま 楽しいぞ雪 つもる雪	ガイモン 岳
ふじ山は 雪のぼうしを かぶってる	ミラー 尊
冬休み 雪ふりつもる うれしいな	橋本 弥生
お正月 はねつき遊ぶ おもしろい	徳永 悠人
クリスマス 雪で遊んで 楽しいな	大川 海



実に子どもらしい目線の俳句ばかりですね。直感的であり体験的でもあります。また、たぶん、こうありたいと期待感を込めた俳句でもあるかもしれません。

読み手の皆様もこの年齢の時には、こんなことを考えてたんだろうなと、昔を懐かしみながら、共感されていることでしょう。

【五年生 作文】

学芸会

高山 芹奈

十二月二十二日に、学芸会がありました。五年生は国歌「君が代」「星条旗」、そして「サザンカ」を合唱しました。合唱する前に、それぞれの歌についての解説を、生徒がマイクの前に出て来て話す場面が何度かあります。そのせりふのうちの一つを、私がやらせてもらいました。ほとんど始めは勢いでやることになったのですが、今では、やってとても良かったと思います。

学芸会当日に向けて、毎週たくさん練習をし、何度も曲を歌いました。だから、当日に少し自信が持てたのだと思います。けれど、来賓の方のあいさつの間、まくのうらでは、ものすごくドキドキしました。心ぞうの音が、やけにうるさく感じられました。

やがてまくが開いて、全生徒やお客さんが見えた時、私のきん張はだんだんおさまっていききました。国歌も、サザンカも、大きな声で上手に歌えたと思います。自分のセリフも間ちがえずに言えて、とても安心しました。

みんなと声を合わせて歌うのが、あんなに楽しいとは、思いませんでした。他の学年の出し物を見るのも、楽しかったです。悔いのない楽しい学芸会にできて、本当に良かったです。



【五年生 作文】

学芸会

市川 仁菜

「マイクをこわす気で歌って！」と、久保先生の声が今、本番直前に頭にうかんできた。わたし達は、君が代、せいじよう旗、とサザンカを歌うことになっていた。この本番で全部を出さないと、今までの苦労が水のあわだと心に言い聞かせた。「次は、小学五年生の合唱です。」と司会の声が聞こえた。いよいよだ、とわたしは意気込んだ。

わたし達は、音楽室とステージ練習をくり返して来た。たびたび、声が小さいと言われたが、毎回みんなでいっしょうけんめい直した。その努力が、今、実を結ぶ時だ。

カーテンが開いて、たくさんの顔が見えた。みんなきん張していて、スポットライトがものすごく熱く感じた。しかし、歌い始めたら楽しくて、みんなマイクをこわす気で歌っているのが感じられた。歌い終わって、みんなが礼をすると、カフェテリアがどっと拍手であふれた。カーテンがしまると、満足やほっとした気持ちがかみ上げてきた。

今でもまだ、拍手の音が、耳に残っている。

学芸会を通して、大きな感動を受けたことで、作文もすらすらと書くことが出来たように思います。学芸会は、単なるお楽しみのお機にとどめずに、自己成長するよき機会としたことがよく伝わってきました。緊張することは、それだけ真面目に向き合い成功させようとする気持ちの表れだと思っています。「役が人を育てる」とも言います。一人一人が成長することが出来た学芸会となりました。

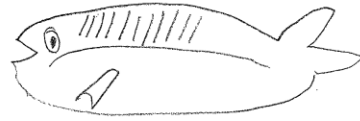
なにやさん
おはなやさん
がきやさん
くたものやさん
さかなやさん



ものの名まえ

と	の	たら	えな	は	12月
い	お	か	ん	ど	バ
い	ら	き	ま	な	す
い	し	わ	え	ど	さ
ま	た	く	は	ち	バ
し	い	れ	さ	ま	う
た	ま	は	ん	は	と
せ	か	な	め	あ	つ
い	で	て	い	の	は
さ	す	つ	さ	か	ら
た	け	い	ま	ん	お

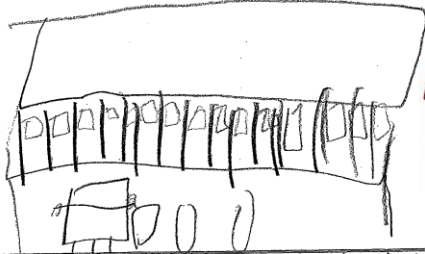
1年 下條 瑞季



ものの名まえ

に	と	す	け	た	名	な	な	12月
ば	あ	お	た	い	ま	ど	あ	15日
ね	く	い	じ	き	名	え	は	土
た	は	い	を	や	ま	な	で	よう
ん	ま	く	く	え	ど	す	一	日
を	お	し	た	さ	は	を	お	ま
い	さ	た	さん	い	ま	あ	一	つ
い	い	が	ざ	と	じ	つ	た	は
ま	く	い	か	め	い			さ
し	さ			な	て	さ	つ	か
た	ん			で	つ	ば	の	

1年 小山 力輝



ものの

と	の	ま	な	ん	あ	は	ハ	タ	チ	12月
い	ら	き	ま	な	す	は	ウ	ヤ	タ	15日
い	し	わ	え	ど	さ	し				土
ま	た	く	は	ち	バ	一	カ	ソ	の	よう
し	い	れ	さ	ま	う	つ	じ	で	お	日
た	ま	は	ん	は	と	一	さ	す	み	ま
せ	か	な	め	あ	つ	い	せ			つ
い	で	て	い	の	は					で
さ	す	つ	さ	か	ら					る
た	け	い	ま	ん	お					で

1年 ディオルディ エリック

この学習は、魚屋で「さかなをください」と言うと、「さかなじゃ わからないよ」と返され、「あじ」「さば」「たい」など、魚にも一つ一つの名まえがある「ことばのおもしろさ」を学びます。

そして、自分たちで言葉を選び、お店屋さんごっこを通して、学びを深めていきます。

1年生もこの時期ともなると、ハイレベルな文章構成を学習していることがよくわかる作品となっています。

作品は、三部構成で書かれており、段落分けや「」も活用しています。ですますや句読点もばっちりです。

お店屋さんの店主になりきった感じで、お客さんへの声かけややりとりが楽し気で、楽しい学習だっただろうなと感じました。



プシュケの涙

【六年生 読書感想文】

プシュケの涙 (柴村 仁)

柴田 ナタリー

私は、今年の十一月の間に「プシュケの涙」という本を読みました。「プシュケの涙」の話は、面白くて、びっくりして、悲しい物語です。一度読み始めたら止まらず、そのまま引き入れられる素晴らしい本です。私はこの本を読んで、人間関係の大切さを学びました。

「プシュケの涙」は、本の半分が違う主人公の話になっています。まず、最初の半分の主人公は学校でクラスメイトの吉野彼方が自殺したのを見たという高校三年生の榎戸川という男の子です。榎戸川は吉野彼方が本当に自殺をしたのかを探っている違うクラスの男の子、由良と出会い、質問責めにあいます。ですが、同じく吉野彼方の自殺を目撃したと言う榎戸川の友人、旭が由良を止めようとします。こういった場面を読んでいると、先の展開が全く予想がでず、すらすらと読むことができます。そして最後は、吉野彼方と由良の人間関係に驚き、同時に喜びや寂しさも感じさせられました。このようなたくさん感情によってこの本がとても印象に残りました。

「プシュケの涙」の後半の話は、学校で自殺をしたと言われている吉野彼方という女の子の過去の話です。彼女は家族や学校のクラスメイトとの人間関係に困っており、その人達と良い人間関係を保っていたのですが、吉野彼方が死んでしまい、由良はなぜなのかをとて不思議に思います。

こうして、本の始めには解けなかった謎を読みながらどんどん解決できて、本を読み終わってからすっきりしました。「プシュケの涙」は何度読んでも良い本だと思います。

【六年生 読書感想文】

「君たちはどう生きるか」を読んで

佐々木 ゆめ

私は、主人公のコペル君達が上級生から友達を守る決意をした所が心に残りました。

コペル君の友達はある出来事がきっかけで上級生に目をつけられるようになりました。でもコペル君と他の友達はどんな事があっても守ろうと決めました。私は勇気を出して立ち上がるのは、私には真似できないと思いました。

もう一つ心に残った所は友達が上級生に見つかって、コペル君は勇気を出せずにみんなを見捨ててしまった所です。

その日から、コペル君は学校に行けなくなっていました。私はこの時、友達はコペル君の事をどう思っていたんだろうと思いました。学校に行くと、友達と仲直りする事が出来て自分のことの様に安心しました。

この本を読んで、私はコペル君のように、どんな事があってもくじけずに前を向いて生きていこうと思いました。



時の経つのを忘れるほどに本の世界の魅了された二人のようです。二人を引き込むほどの作品内容と文の力が作家の凄さとも言えるでしょう。

まずは「プシュケ」とは何だろうかと思いながら、読み始めました。ストーリーの世界に迷い込み、この先どうなっていくのか読まずにはいられなかった読者の心情がよく書き表せている読書感想文だと思います。どうなっていくかとモヤモヤしながらも最後はすっきりとしたナタリーさん、本当に良かったですね。※ところで、「プシュケ」とは・・・(ここで書くといけないので、記述しません。)

「この曲を聴くと元気が出る」や「本から目指す方向を教えられた」など、歌や本から学ぶべきことや勇気づけられることはよくあります。また、同じように出会った人から得ることもあります。読書から、くじけずに前向きに生きていこうと決意したゆめさんに感心しました。



【六年生】

タマゾン川 (山崎 充哲)

ドールズ 沙良

東京の多摩川には、遠い国のアマゾンから来た魚、アメリカやオーストラリア、パプアニューギニア、ヨーロッパ・・・など世界中の魚が泳いでいるのだそうです。日本の大都会の真ん中に流れている川にどうしてアマゾンの肉食魚やカラフルな熱帯魚が泳いでいるのでしょうか。

この本は、多摩川に住む外来魚と在来魚、そして飼えなくなった魚を引き取るお魚ポストのこと、多摩川がきれいになった理由を知ることができる下水処理のことなど、社会的な面と生物学的な面から書かれています。

外来魚が増えた理由は、魚をペットとして飼う人が多いからです。ペットシヨップの魚は世界中から来た魚です。飼えなくなったが殺したくないので、川に放します。それが、原因で外来魚が増え、在来魚が減っているのです。

私はペットと飼うときはぜったいに死ぬまで飼えるか？ちゃんとお世話はできるか？」と考えてから飼います。

一九九〇年代、「死の川」と言われた多摩川は下水処理場によって、水はきれいになり魚も増えました。その一方で、川の温暖化をまねき、外来魚が生きやすい環境をつくっています。私たちは毎日の生活の中でどうやって水や洗ざいの量を減らすことができるかを考えなければいけないと思います。



【中学部一年】

「流水と私たちの暮らし」を読んで

大石 颯良

流水は、いわば地球のエアコンだ、と著者の青田昌秋さんは言っている。地球を生命に適した気候に保つため、流水は大気と海洋を大循環させるための原動力を生み出しているという。この大切な役割を果たしている流水が近年減少していると著者は警鐘を鳴らしている。何故なら流水が減少することによって、大気や海洋の循環に異変が生じ、各地で異常気象が多発するおそれがあるからだ。

四年前にアラスカに旅行した時、ジュノーにあるメンデンホール氷河を見に行った。ガイドは、かつて氷河があった場所を私達に教えてくれた後、現在の氷河のある場所を指してくれた。しかし、その場所は思った以上に遠い場所で、地球温暖化のことを私達は深刻に考えなければならぬと強く感じた。無駄な電気は消し、ごみを減らし、水を大切に。私達にできることはわずかだが、できる事を続けていきたい。



アマゾン川ならぬ、「タマゾン川」は文の内容からしてぴったりのネーミングだなと感心しました。池や堀の水をぬき、美しくよみがえらせようとするテレビ番組がありますが、よく出てくるのは、自転車や電化製品の粗大ごみと大きくなった外来種の魚やカメなどです。危害を与えるような種類もあり、ペットを飼う人のモラルが問われています。どのようなペットを飼うにしても、命を預かる者としての自覚と責任を持って、最後まで面倒を見てほしいものですね。

比較的温暖な九州育ちの私には流水は遠い存在で、「北海道、流水の旅！」といった観光パンフレットで見る程度です。どちらかといえば、観光資源にはなるでしょうが、流れ着く流水で漁に出られないなどのマイナスイメージがありました。流水が、地球生命に適した気候を作り出すのに大いに貢献していることが、よくわかりました。この何十年、何百年で氷河は縮小してきているんですね。

海一面を覆いつくすほどの流水は、実に壮大なスケールでしょうが、当然ながらオーロラを見に行くように極寒の厳しさもあり、観るにも勇気と強い忍耐力、精神力がいるようです。

第39回海外子女文芸コンクールの詩の部門で特選となった中学部1年金井裕太郎君の作品は、わかば31号でいたしました。そこで今回は、冊子「海外子女教育」の中から、それぞれの賞に輝いた作品をご紹介します。今回は、「短歌の部」です。 ※海外子女教育11 No549からpdf転写



文部科学大臣賞

帰り際いつも言ってたまた明日
旅立つ友への別れの言葉

サンパウロ日本人学校（ブラジル）

中三 岩井 南桜

海外子女教育振興財団会長賞

アビジャンの海水浴は大波で
プールに入り海ながめてる

アビジャン補習授業校（コートジボワール）

小四 黒川 葵 リンダ フェウイ

日本放送協会賞

小ぎつねと窓をはさんで目があって
濃いもやの中時は過ぎゆく

ロンドン日本人学校（イギリス）

小六 犬塚 万尋

読売新聞社賞

ホウセンカ
ドバイのあつきにまけるなよ
小さなふたばに一人つぶやく

ドバイ日本人学校（アラブ首長国連邦）

小三 リン 三樹



JFE 21世紀財団賞

淋しさが暑さとともに増す日々は
桜の咲かない別れの季節

ベトナム在住

中三 若松 凜子

東京海上日動火災保険賞

うしろあしまえあしのばしたちあが
るおっこちそうだらくだのせなか

カイロ日本人学校（エジプト）

小一 鈴木 聖吾

日販アイ・ピー・エス賞

さくらんぼ友達ととる道ばたで
すっぱい味した明日が帰国日

ブラハ日本人学校（チエコ）

小四 竹内 彬

日本児童教育振興財団賞

街をゆき屋台の傍を通る時
マンゴーの香せり夏がまた来る

ムンバイ日本人学校（インド）

中二 下村 泰三

クラーク記念国際高等学校賞

また会おうビー玉ひとつともだちに
地球はひとつ夏空の下

ピッツバーグ補習授業校（アメリカ）

小五 丹野 はな

